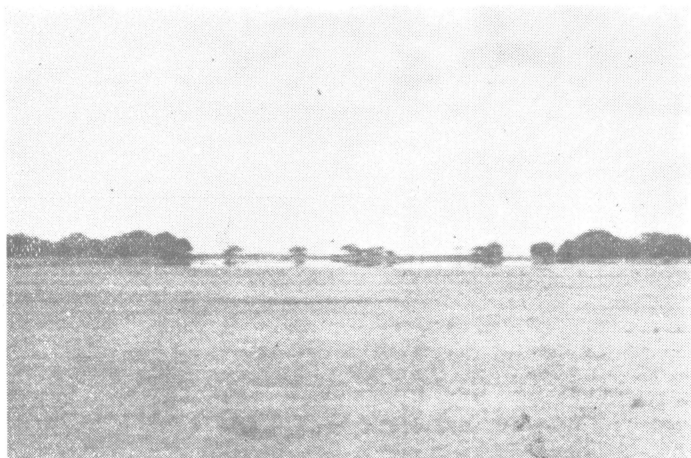


地方だより

…南 島 島…



—南島島（マークス島）の偽水面—

南島島では、お天気のよい風の比較的弱い日には大抵何時でも飛行機の滑走路のある所で偽水面を見ることが出来る。島の北東から南西へ走っている滑走路(1458m)の中央辺で腰をかがめた姿勢で滑走路端をのぞむと写真のように地平線近くに輝く、時には小波を立てた池のようなものが現われる。いわゆる武蔵野の逃水と同じ層気楼の一種である。

滑走路は見殻や造礁珊瑚の細片をおしかためて出来ており、さえぎるものがない強い日射で熱せられて相当高温となり。従ってそれに続く地面近くの空気層の気温が高くなる。一方滑走路の周辺は2、3mの樹木で蔽われているので、風速の大きいこの島の地上1、2mの辺は

海を渡つて来た比較的冷たい空気のため、地面附近の空気層に比しずっと気温が低くなつていていると考えられる。そこで空気層に下暖上冷の大きい温度差が生ずる。そこで空気層の密度に上下方向の急変を生じ光の屈折によって、この場合は地上1m辺より下にぼんやりして動揺する倒像が現われるものと考えられる。この島では北東または南西の地上附近の風の強い場合は、気層の温度差の急変が生じにくいので、従って偽水面も生じないことが多い。滑走路では北東に向つても、南西に向つてもみられるが、後者の方が条件がよくきれいに生ずる。

海写真はその場合である。

南島島では、この他に変わった気象現象としては月虹(白虹)や裏御光が時折現われる。月虹は七色をはっきり分れて見えるのではないが、僅かばかり内側が赤味がかって見える。

—写真データ—

1955年10月30日13時リコーレフ、F3.5 1/100 8 Y2、
マイクロファイン、地上20cm位より撮影、10倍に引伸

(離島課 村山信彦)